

# 2020年度 事業報告書



一般社団法人 全日本囲碁連合

## 1. 公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）への登録、及び事業協力

2022年9月10日～25日に中国・杭州で行われる第19回アジア競技大会の種目として、囲碁が採用された。選手派遣を行うため、日本オリンピック委員会への加盟申請に向け、JOCの強化部ならびに総務部の担当者とのやり取りを開始した。

加盟申請に必要な資料ならびに規定等について、他のJOC加盟団体の事例を参考にしながら、スポーツ庁が策定している中央競技団体向けの「スポーツ団体ガバナンスコード」を確認し、準備を進めている。

## 2. 代表選手及び役員を選定及び派遣

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、国際スポーツ連盟機構（GAISF）や国際マインドスポーツ連盟（IMSA）主催する国際大会ならびに会議が軒並み中止となったため、代表選手ならびに役員を選定・派遣は実施しなかった。

## 3. 選手の選考基準の策定

当法人からアジア競技大会等の国際競技大会に選手派遣する場合の選考基準の立案を始めた。2021年9月末までに理事会の承認を取り、決定する予定である。

## 4. 参加国による競技ルールの取決め、調整及び国際会議出席者の推選

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、国際スポーツ連盟機構（GAISF）や国際マインドスポーツ連盟（IMSA）主催する国際大会ならびに会議が軒並み中止となったため、競技ルールの取決め等の打ち合わせは実施しなかった。

## 5. 選手の育成、指導、強化

当法人社員である日本棋院、関西棋院所属棋士が参加するナショナルチーム「GO・碁ジャパン」において、インターネット対局などを通じて、男女国内トップ棋士、若手棋士への強化活動を行った。

## 6. アンチドーピングへの教育と啓発

国際囲碁連盟（IGF）の担当とのやり取りを行い、アンチドーピングに関する知識を深めた。今後はJADAへの加盟申請に向けた準備を進めていく予定。

## 7. その他前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

### 7.1 当法人構成団体の事業に対する協力

社員である日本棋院、関西棋院、日本ペア碁協会の各団体が主催する以下の大会・イベントに対して協力を行った。

- ・松田昌士メモリアル 第31回国際アマチュア・ペア碁選手権大会（12月5、6日開催）

### 7.2 定期会合の実施

新型コロナウイルス感染症の影響による移動制限もあり前年度よりも実施回数が減ったものの、日本棋院、関西棋院、日本ペア碁協会から選出された当法人の理事・監事が集まり、定期会合を実施した。囲碁・ペア碁における各団体の事業や国内外の課題に関して、活発な意見交換を行った。

## 8. 2020年度活動の総括

世界的な新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、当法人ならびに構成社員である日本棋院、関西棋院、日本ペア碁協会それぞれの活動においても、かなりの制限が発生して、また各団体ともその対応に追われ、JOC加盟に向けた準備を十分に進めることができなかった。2022年9月の杭州アジア競技大会の開催が迫っており、JOCへの加盟と選手派遣に向けて、手続きなど準備を加速させていく必要がある。

また新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、移動制限要請が続いている状況であり、事務局レベルではオンラインを活用し、定期的に打ち合わせを実施して、意見交換や情報共有を密に行っていく必要がある。